

<「知るっば！久留米」 令和3年9月16日（木） 12：30～放送分>

久留米入城 400 年（後編） ～第3回～ 「梅林寺も 400 年」

<ゲスト：久留米市文化財保護課 白木 守>

坂本 MC（以下「坂本」）

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今週も、『久留米入城400年』をテーマにお送りしていきます。ゲストはこの方です！

ゲスト：白木さん(以下「白木」)

久留米市文化財保護課の白木守です。よろしくお願いします。

坂本 2 週続けて歴代藩主から現在当主まで、色々なエピソードを取り上げてきました。

今日は、ここ数年話題となっている有馬家の菩提寺である「梅林寺」についてお話を伺います。

梅林寺も今年で400年を迎えたということで、白木さんよろしくお願いします。

白木 1621 年、今から 400 年前、有馬豊氏が久留米藩主として久留米に来たのに伴って、

福知山にあった瑞巖寺（ずいがんじ）というお寺も久留米に移しているんですね。

初めは大龍寺（だいいりゅうじ）という名前だったのですが、後に梅林寺と改められています。

坂本 それで、「有馬家 400 年、梅林寺も 400 年」ということですね。

白木 そうですね。この梅林寺という名前なんですが、

1621年に藩祖である則頼の墓を改葬したのをきっかけに、

則頼の法名が「梅林寺殿」であったことから、それにちなんで梅林寺と改めたそうです。

ところが、最近、福知山など色々な地方での調査によって、

既に兵庫県三田の地に梅林寺というお寺があったという話も出てきて、

ここは、今後も調査を進めていきたいと思っています。

坂本 梅林寺のルーツがまだまだ謎のままということで、なかなか面白いですね。

これからの調査に期待したいところです。

ところで、平成 30 年でしたかね。霊屋（たまや）が国の重要文化財になりました。

そもそも、霊屋というのはどういうものなんですかね？

白木 なかなか聞き慣れない名前かと思うのですが、

簡単に言うと、霊（れい）、つまり霊（たま）を祀るための建物を霊屋と呼んでいます。

建物の中には、お墓やあるいは位牌などを安置する場合がありますね。

霊廟(れいびょう)と呼ばれたりもしますね。

坂本 その建物が国の重要文化財になっているというわけですね。

白木 そうなんです。梅林寺本堂の裏手に有馬家の墓所というのがあるんですね。

そこに、現在 5 棟の霊屋があります。

上下 2 段に分かれていまして、下にある 2 棟の霊屋の中には、
いわゆるお墓(石塔)が納められています。

また、上の段には 3 棟の位牌廟(いはいびょう)という建物があります。

この位牌廟の中には、宮殿という位牌を納めたものがあって、
それには金箔を貼り巡らせたり、漆塗りだったりで、今でも非常にきれいな色を放っています。

坂本 そんな立派なものがあるといっても、普段はなかなか見られないですよね？

白木 そうなんです。お寺さんが大事に管理されているんですが、一般には公開しておりません。
それでも、年に何度かイベントをする時などには、特別に公開していただいたりもしていますね。

坂本 ぜひ拝見したいですね。その霊屋には、全ての藩主が納骨されているんでしょうか？

白木 そこなんです。まず下の段には、藩祖の則頼、初代藩主・豊氏、その正室の連姫、
それから 2 代・忠頼の石塔があります。
そして上の段には、豊氏・蓮姫・忠頼の位牌が収められているんですね。
わかりやすくいうと、下の段の霊屋はお墓、上の段の位牌廟は仏壇といったところですね。

坂本 3代目以降の藩主は、どちらにおられるんですか？

白木 おそらく霊屋を建てるのに財政的な問題があったと思うのですが、3代・頼利が亡くなった時に、
殿様が梅林寺に「これまで通り霊屋を建てるべきかどうか」のお伺いを立てています。
すると、お寺の老師さんから、「特にこだわる必要はなかですよ。」というような回答があったので、
霊屋という建物は作らずに、代わりに大きな石塔を作っていくことになりました。

坂本 なるほどねえ。

ちょっと 3 代目以降の扱いが・・・なんて言いましょうか、簡素になった感じはしますけど。
その石で作った石塔は、どれくらいの大きさなんですか？

白木 3層建ての石塔で、高さ4メートル以上ありますね。

一般的な私達の家のお墓は 1メートルちょっとですから、かなり大きいです。

なおかつ、周りを「玉垣(たまがき)」と呼ばれるものによって囲まれてもいるんですよ。

坂本 まあまあ立派なものなんですね、ちょっと安心しました。
その石塔の下に藩主が眠っておられるということですね。

白木 梅林寺に埋葬されているのは、初代・豊氏、2代・忠頼、7代・頼僞、10代・頼永の4人ですね。
また、この梅林寺の藩主の石塔の近くには、藩主の家族であったり家老だったり、
あるいは殉死した家臣の墓なんかもあります。

坂本 ということは、まだ別のところにおられる藩主もいるということですね。

白木 それ以外の藩主は、東京の広尾にある祥雲寺（しょううんじ）というお寺に眠っています。

坂本 それは、どうやって分けというか、区別されたんですか？

白木 江戸時代、みなさんも聞いたことがあるかと思いますが、
参勤交代という1年間は国元、1年は江戸で過ごすという制度があったんですね。
基本的には、国元である久留米で亡くなった殿様は梅林寺で、
江戸の藩邸にいたときに亡くなった殿様は、東京・広尾の祥雲寺に葬られることになっています。

坂本 そういう仕組みになっているわけですね。
じゃあ、東京（祥雲寺）にも久留米の梅林寺みたいな大きな墓地というかお墓があるんでしょうか？

白木 そうですね。実は、1000坪におよぶ墓地がありました。
ところが、昭和29年にお寺が火災に遭ったのをきっかけに墓地を縮小して、
昭和33年に改葬されてしまって、今は1カ所の供養塔として残っているだけなんですね。

坂本 昭和33年というと、もう60年以上前ですね。
火災がきっかけということなのでしょうけど、
東京ですから都会ならではの土地の問題とかもあったのかもしれないね。

白木 実は、それが一番大きかったと思います。
この梅林寺の霊屋や石塔、有馬家の墓所は、今年の3月に国の史跡になっています。
先に重要文化財となった霊屋5棟と、その後に史跡の二重指定というのは非常に珍しくて、
全国でも2例しかないので、非常に注目されている事例でもあるんです。

坂本 それは凄い。今年の7月に梅林寺のティーハウスも国の登録文化財になりましたよね。

白木 そうですね。7月16日に登録されたのですが、この梅林寺のティーハウスは、
久留米市出身の建築家である菊竹清訓（きよのり）さんという方の設計です。
この方は、久留米市役所もそうですし、それから九州国立博物館の設計も手掛けた方で、

この菊竹さんの建築の中でも初期にあたる建造物として、非常に貴重な建物ですね。

坂本 このティーハウスは今もあって、営業もされているそうですね。
ぜひ足を運んでいただけたらと思います。そろそろ、お時間がきました。
来週は『久留米藩の利水と治水』をテーマにお聞きます。
楽しみに。